

4月講話会 報告

第1回の講話会は、『子どもの心が危ない ー小児心身治療の経験からー』と題して、大分市内で33年のご経験を持たれ地域医療の向上に努めていらっしゃるかきさこ小児科院長垣迫三夫先生よりお話をお聞きいたしました。

垣迫先生は、小児診療経験の中から、気にかかるところのお話をしてくださり、大変関心深い内容でした。先生は、子どもは基本的なところは変わっていませんよとお話をされた上で、先生の子供たちの気になる点として、**身体的側面と心理的側面、そして行動的側面**から整理されて次のように指摘されました。

《**身体的側面**》 ・肥満が増えている

《**心理的側面**》 ・社会性の発達の遅れ

・いわゆる“折れない心”の弱さ

・がまん力、耐性の低下

・きれいやすい

《**行動的側面**》 ・不登校の増加 ・就寝時刻が遅くなっている

・ゲーム、DS、ケータイの使用増加(診察中も)

・外遊びが減った。なかでも自然の中での遊び



何れの指摘も、うなずけるものばかりです。子どもたちが、今、深刻な環境のなかに置かれ過ぎていることは、確かです。子どもたちの心を守るために、どうすべきでしょうか？現在小中



学校の先生は超多忙のなかにあります。学校だけに依存はできません。垣迫先生は、**子どもを守るために“家庭が最後の砦”**です。家庭がしっかりすることが鍵ですと強調されました。家庭がしっかりするために、親としては深刻な問題です。来月5月27日(土)の第2回目になりますが、家庭問題の総合カウンセラーの松本雄司氏をお招きして、『**家族の絆の上手な結び方**』と題してお話を伺います。ご参考になればと存じます。(青井勝久記)